

## 北極環境研究コンソーシアム 設立趣意書

北極は、地球温暖化による平均気温の上昇が最も大きく、地球上において気候変動による影響が最も顕著に現れると予測される地域の一つです。また、北極における変化は、大気・海洋循環の変化や雪氷圏の変化などを通して、全球的な気候システムに大きな影響をもたらす可能性があります。これらの気候変動メカニズムとその影響を解明し、将来の変化を的確に予測し、必要な対策を講じるためには、北極における観測の継続・強化やプロセス研究の高度化、北極気候変動モデルの高度化を図ることが必要です。

また、北極は、我が国への影響という観点からは、特に近時の北極振動の振舞いに伴う異常気象の発生などにより、その重要性が改めて認識されるとともに、海氷の急減に伴う北極航路の活用など経済活動の面からの関心も高まっています。もともと北半球に位置し、気候・環境的に北極域・高緯度地域の影響を強く受けている我が国としては、こうした近時の状況を踏まえ、より強力に北極環境研究を推進すべき時期にきています。

これまでの我が国における北極環境研究は、様々な機関の多くのグループにより、一部に連携はありましたが、どちらかという分散した形で実施されてきました。我が国における北極環境研究の総合力を高めるためには、研究分野、観測・解析・モデルという手法や組織を超えた連携・協力が重要であるということで4年ほど前から関係者の一部が活動を開始し、2008年以来、地球惑星連合大会での「北極域の科学」セッションを開催するなど、科学的議論を活発化させてきました。また、2008年と2010年には国際北極研究シンポジウム (ISAR) を開催し、最先端の北極環境研究に関する情報交換を図るとともに国際協力の推進方策などを議論してきました。徐々に研究者間、主要機関間での対話が増えて国内外の北極研究者間の連携・協力の機運が醸成されてまいりました。折しも、平成23年度からは文部科学省の科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会 地球観測推進部会の下に北極研究戦略小委員会が設置されたとともに、「北極気候変動研究プロジェクト」が開始され、「モデルと観測の融合」を強力に推進することになり、研究コミュニティ内で協同体制を組み北極環境の研究を推進することが求められています。

このような状況の中で、我が国における北極環境研究の総合力を発揮するための新たな取り組みとして、各分野の北極研究者の参加により、オールジャパン体制で北極環境研究の強化に取り組むネットワーク型組織である「北極環境研究コンソーシアム」を立ち上げ、研究コミュニティメンバーの研究の後押しをするとともに社会の期

待に応えられるよう、体制を整備することになりました。コンソーシアムでは、北極環境研究に関する長期計画策定や研究・観測推進の基盤整備に関する検討、国際協力・連携の推進・検討、人材育成の方策の検討を行うとともに、それらを社会に対して提案していくことを目的としています。また、コンソーシアムでは、主要研究プログラムなどの推進協力、コミュニティ内の円滑な情報の流通や国内・国際社会に対する国内研究・観測の成果発信など、北極環境研究の短期・長期的推進に関する全てのことを対象とし、日本の北極環境研究の実質的な推進・調整組織として機能していきたいと、考えております。

皆様にご参加いただき、またご協力いただきたいと考えております。

本コンソーシアムは、希望者の登録制とし、登録され会員となられた方々の意見をコンソーシアム内に設置される運営委員会が受け取り、そこで議論・決定される方針に沿って、会員の方々には、ワーキンググループ等の各種活動に参加していただく形式を予定しています。つきましては、コンソーシアムへの参加を希望される方は、登録書に記入の上、送付願います。

平成23年5月13日

発起人(あいうえお順)

東久美子、石川 守、榎本浩之、大澤 晃、大島慶一郎、太田岳史、大畑哲夫、  
齊藤誠一、島田浩二、杉本敦子、田中 博、野沢 徹、福田正己、藤谷徳之助、  
松浦陽次郎、安成哲三、山内 恭